

【演題】

CAD/CAM技工（CAD/CAM を用いたHBレジンプロック製作の実際）

コンピューターによる設計製造支援技術（CAD/CAM）は20年以上前から

様々な形で補綴物の作製に使用されるようになった。歯科補綴物の製作は機械化や

自動化が難しいと言われたが、近年では歯科分野でも様々な技術革新が行われ製造工程を

機械化するCAD/CAMが急激に普及し、遂に2014年4月よりCAD/CAM冠

（ハイブリッドレジンプロック使用）が保険適用となり業界を賑わしている。

今回、この保険適用CAD/CAM冠について私が携わった臨床例を通して技工士サイド

から見た形成のポイントや接着についてお話させていただきます。

【略歴】

1980年 福岡歯科技工専門学校卒業

同年 朝日クリニック 樋口歯科医院勤務

1990年 有限会社 イングデンタルラボラトリー開設

2001年 日本歯科技工学会 認定士

現在 福岡地区歯科技工士会 専務理事

福岡技工研究会 所属

CAD/CAMを用いた材料の種類と歯科技工の実際

一志恒太

福岡歯科大学医科歯科総合病院中央技工室

昨今、歯科補綴治療のなかで歯科用CAD/CAM装置を用いた歯科補綴物の臨床応用が多様化されている。加工技術もそれに伴い発展し、歯冠材料も安定性の高い材料が次々に出てきている。その事からも、あらゆる歯科補綴物の製作ができるようになった事は言うまでもない。デジタル機器を用いた歯科補綴物製作においても新たに周知すべき点が見えてきた様に思える。平成26年度診療報酬改定時には、先進医療の保険導入ということで「CAD/CAM冠」が保険適応とされた。ますます歯科のデジタル化は進み、歯科用CAD/CAM装置と歯科切削加工用レジン材料の多様化が、自費診療のみならず保健診療においても期待できると考える。一方、注意すべき点が新たに出てきた事も言えるのではないか。今回は、その様なデジタル機器と歯科切削加工用レジン材料を用いた歯科補綴治療や補綴物製作に関して当大学病院での臨床例と、チェアサイドとラボサイドが共通して持つべき情報や、留意点について考察を加え述べたいと思う。そして、CAD/CAMを使用した歯科補綴物に関するトレーサビリティについても供覧したいと思う。

一志 恒太

Kota Isshi

福岡歯科大学医科歯科総合病院・中央技工室

Central Dental Laboratory, Fukuoka Dental College Medical & Dental General Hospital

[略歴]

- 2002年 学校法人博多学園 福岡医科歯科技術専門学校（現、博多メディカル専門学校）卒業
- 2002年 歯科補綴研究所 d. l. セイリュウ 勤務
- 2003年 株式会社 NK デンタルクラフト 勤務
- 2007年 公益社団法人日本口腔インプラント学会認定歯科技工士 取得
- 2013年 福岡歯科大学医科歯科総合病院 中央技工室 勤務
- 2013年 学校法人博多学園 博多メディカル専門学校 歯科技工士科教育課程編成委員

[所属]

- 公益社団法人 日本口腔インプラント学会
- 日本デジタル歯科学会
- 一般社団法人 日本歯科技工学会
- 公益社団法人 日本歯科技工士会